

0. 登録番号       d-019      

1. 提案のタイトル

臨燈の丘

2. 提案の趣旨

本提案では、グリーンワールドに丘を築き、築いた丘を中心とした宿泊施設を万博、そしてこれからの夢洲の風景の一部として提案する。

夢洲の西部に位置するグリーンワールドには、ウォーターワールドに作られる予定のホテルとは一味違ったグランピング施設が作られる予定であり、海を眺められることや、最先端技術を体験できる実験場と同じ島にある有意義な施設になると考えられる。

IRを誘致していることからわかるように、夢洲は昼間だけでなく夜間にも価値が見いだされる場所になると捉えた。これまでの昼の万博に加えて、夜を楽しむ万博、更に宿泊型の万博が存在してもいいのではないかと考えた。夢洲の夜の価値を生む魅力の一つに、大阪湾に煌々と降り注ぐ光があると考え、光を眺めることを楽しむ場所を提案する。

宿泊施設の形態はテント型とし、配置は築いた丘の勾配に沿ってテラス状にする。これにより視界に映り込む他の人の体験に目が向き、個人の新たな発見につながることを期待できる。

本提案で人々は大阪湾の魅力的な夜景を軸として設計した園路を辿って丘を登り、振り返ると眼下には万博会場、南に関西国際空港、そしてその奥には大阪府と和歌山県を隔てる和泉山脈を望むことが出来、夜には神戸や淡路島の夜景も楽しめる。最先端の技術を体験する万博の際の宿泊では自然の光である夕日が正面に見えることや夜、街の灯りだけでなく星空を眺められる自然体験の場になる。

万博が終わった後も丘やテントは残り、夢洲は人々に日々新しい視点や発見を与え続ける場所となる。大阪湾や都市の形は時代と共に変化するが、万博が開催された土地、そして最先端技術の実験場であり続けるこの場所は、都市の燈を臨む丘として夢洲の歴史に刻まれてゆく。

3. アピールポイント

